

日吉ヶ丘

2000年7月1日・第1号

函館ラ・サール高校同窓会
函館市日吉町1丁目12-1 ☎0138-52-0365



(新校舎)

同窓会会報 発刊に寄せて



函館ラ・サール高校
同窓会々長 渡辺良三
(第4回生)

昭和35年に開校して以来、函館ラ・サール高校は今年で40年を迎え、卒業生も1万人を超えました。

先輩の鹿児島ラ・サール高校は今年で開校50年となり、8月5、6、7日の3日間にわたり、盛大な50周年記念が催行される予定となっております。函館ラ・サール高校同窓会も数年前より先輩校の同窓会と交流しております(各1回ずつ訪問し合っております)が、先輩校の組織は鹿児島島の土地柄のせいもあってか実にしっかりと出来ております。「小松原」と銘打った同窓会会報紙を定期的に発行し各会期ごとの活動も緻密に把握して、会自身の行動の報告、同窓生の活動も事細かく記載されるなど、ラ・サール同窓会の全体像が良く分かるようになっております。当函館ラ・サール同窓会にも、十勝支部、札幌支部に続き、昨年、西日本支部が誕生し、全国的な情報が少しずつ入るようになって参りました。

今回、函館ラ・サール高校同窓会会報紙発刊に当たり、本会報が、本校卒業生の様々な意見交換の場になることを念願し、来たるべき50周年には何らかの形で卒業生全員が参加出来るような記念式典を催すことが出来ま

すよう期待するものです。

終りに、卒業生全員のこれからの御多幸と活躍をお祈りして発刊の挨拶といたします。



同窓会会報 発刊を祝って



函館ラ・サール高校々長
ブラザー・アンドレ・ラベル

親愛なる同窓会会員の皆様

函館ラ・サール学園同窓会誌が今年発刊の運びとなりました。心からお祝い申し上げます。この出来事が皆様の間でGOOD NEWS-良きおとずれ、喜びの泉となることを私は確信しております。今年は西暦2000年、新しい千年紀の出発の年であると同時に、函館ラ・サール学園創立40周年にあたります。

その上、今年はラ・サール会の創立者、聖ヨハネ・バプティスタ・ド・ラ・サールに SAINT-聖人の称号が教会から贈られてから100周年(1900年5月24日)、教育者の保護の聖人として公に宣言されてから50周年に当たる(1950年5月14日)記念すべき年であります。

同窓会誌発刊の今年は、これからも特別な意味と価値をもつ年として記憶されるでしょう。この交流の場が、皆様にとって豊かな情報交換の通信路となり、そしてラ・サールフ

2000年 函館ラ・サール高校 同窓会総会

日時
8月12日 午後6時

会場
ホテル函館ロイヤル
(函館市大森町・☎0138-26-8181)

会費
5千円(ただし大学生は2千円)

同窓会に出席し、懐かしい友や恩師と再会しましょう。多数のご出席を期待しております。

問い合わせは、同窓会事務局まで
☎ 0138-52-0365

ファミリーの絆が皆様の間で一層堅固なものになると確信しております。

同窓会誌発刊に尽力される方々にお祝いと感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。そして長きにわたる実り多い「生命」となるように祈っています。

聖ラ・サール、同窓会の会員と皆様のご家族をいつも見守ってください。

聖ラ・サール、私たちはあなたを讃え、感謝を捧げます!

支部紹介

母校創立40周年を迎え卒業生も1万人を超えました。同窓会会員は全国各地で活躍しておりますが、数年前から各地に同窓会支部が誕生しております。

・札幌支部は、数次にわたる設立準備発起人会を経て、平成8年5月、設立されました。第1回支部総会は同年5月17日、札幌・京王プラザホテルで盛大に開催され、道内各地から約250名の同窓生が参加しました。その後、毎年、支部総会が開かれ、親睦を深めております。今年は9月上旬、例年にもまして盛大な同窓会が開催される予定とな

っております(支部会長・佐藤正知氏=第4回生)。

- ・西日本支部は、関西を中心に山口県、福井県、愛知県を加えた範囲として昨平成11年11月に設立されました。支部設立総会は、渡辺同窓会会長はじめ、母校の先生方も出席して大阪・新阪急ホテルで開催され、44名が出席しました。第2回目の今年は、11月頃を目処に琵琶湖ホテルにて開催する予定です(支部長・越越英昭氏=第4回生)
- ・十勝支部は十勝地方出身の同窓生とその家族参加のもと、平成4年に設立され、毎年、支部総会を開催しております。今年は

8月に開催の予定です。(支部長・柏木道彦氏=第2回生)

同期会開催案内

各期毎に同期会が設けられ、数年に一度、或いは毎年、親睦の会を開催しておりますが、今年の日程は次の通りです(判明分のみ)。

1期生=8月5日(函館)、5期生=10月7日(熱海)、6期生=日程未定(苫小牧)、12期生=10月21日(函館)、14期生=10月14日、15日(函館)。なお、2期生、8期生、10期生の各期は本年同期会が開催され、既に終了しております。

寄稿

レオナルド先生のこと



専任講師(旧職員) 海川 敏雄

レオナルド先生が亡くなられて早くも6年が経過した。レオナルド先生という名前をご存じの方はせいぜい5年生止まりで、それ以降の同窓生には全く縁のない名前であろう。若干の説明を加えると、先生が本校に在職されたのは、本校が開校した昭和35年から40年3月までの5年間のことで、この間、先生は英語のB1(現在のOC)を担当される傍ら、担任を持ち、英語部とサッカー部の顧問を持つというブラザーとしては破格な活動をなさった方である。本校を去られた後は上智大・東大・白百合女子大・武蔵野女子大等で教鞭を執られ、亡くなられた平成5年の時は、八千代国際大学の教授であった。

僕は本校に勤めた昭和36年から先生が亡くなられる時まで、友人として親しいお付き合いをさせて頂いた。先生は図書館の責任者で、当時司書をしていた妻の上司であったこともあって、亡くなられる時まで、先生と我が家とは互いに遠慮のない親戚同士のようなお付き合いをしていた。我々職員とブラザーとの付き合いは、相手が修道士であり聖職者であるから、親しく付き合うといっても自ずと限界があるのが普通であるが、先生との関係は全く違っていた。先生は毎年のように夏休みを函館で過ごされたが、来ると必ず我が家を訪ねてくれ、僕がいなくても妻や子供を相手に気さくにお茶を飲み、楽しんでおられた。遠慮なく家に上がり、自由に紅茶を作って飲んだりしたのは、同僚では彼だけである。

最後に先生にお会いしたのは平成5年10月10日の午後である。都内の大学に通う子供から、先生の容体がよくないから会うなら早い方がよいという電話を受けて、祭日を返上して急遽東京へ飛んだ。先生は新玉川線の高津にある帝京大学の付属病院のベッドの中に横たわっておられた。一見して、僕はその変わり様に驚いた。顔は異様にむくみ、目もほとんど見えないくらいに腫れあがり、荒い息づかいで、死期が近いことはもはや誰の目にも明らかであった。3月に上野のアメ横で豚カツと一緒に食べた時には調子はかなり悪そうではあったが、それでもまだお元気であった。僕は絶望的な思いに駆られながら先生の浮腫んだ足を擦り続けていた。(後で聞いた主治医の説明によると、前立腺のガンが他の臓器に転移し、尿毒症を併発しているということで、後1週間がせいぜい2週間程度でしょうということであった)

「僕に、何かしてほしいことはないですか」と言うと、しっかりした声で「祈って下さい」と云って枕元にあるマリア像の写真を目で指した。実は病室に入った時から気づいていたのだが、先生の枕元には、手札サイズのマリア像の写りが立てたまま置かれていた。僕は胸を衝かれた。こんな姿になってまで先生は祈り続けていたのだ…、そう思うと堪らない気持ちになった。この時、僕の心の中に強くあったのは次のような気持ちであった。もしも神がいるならば、先生をこんなひどい目に遭わせるはずはない…、修道士として全生涯を神に捧げ、しかも異郷で青少年の教育のためにあれほど頑張っておられた先生を…、これではあまりにもご過ぎる…、神は先生を見捨てているのだ、それなのに先生はまだ神を信じていて僕に祈ってほしいといっているのだ……。そう思うと先生のことが堪らなく哀れに思われ、遣り切れない思いがしたのだ。

先生が亡くなられたのは10月25日の朝である。24日の夜に子供から緊張した声の電話がかかった。先生の意識が混濁して呼び掛けても全く反応がないこと、ラクロア先生や石井先生が付き添っておられること等を告げ、最後に「レオナルド先生死んじゃうんだね」とぼつんと云った。泣いているようであった。小さい頃から可愛がられ、「ハローのおじちゃん」と呼んで慕っていた。よく一緒に海で泳ぎ、時には英語や様々なことを教えてもらっていた。大学へ進んでからも時々都内で会っては薫陶を受けていた。子供にとっては、いわば最初の「肉親の死との遭遇」ともいべきものであったのだろう。その悲しみが痛いように理解できた。このまま残って先生の最期を見届けようとする子供に、僕は帰よう



(旧校舎)

に命じた。どこの家庭でも最期を看取るのは真の肉親だけだろう。先生にとってはブラザーの仲間達が真の肉親のはずだ、お前は友人としてできるだけのことをしてやったのだからそれで十分だ、帰った方がよい…。子供は、わかったと云って電話を切った。

翌朝、僕は登校して先生が亡くなられたことを知った。享年75歳であった。

レオナルド先生は今、五日市線の武蔵増戸駅から西へ1kmほど入った小高い丘にあるカトリックの墓地で永遠の眠りにについている。病魔に冒され、絶望的な状況の中にもありながらも毅然とした態度で「祈って下さい」とお

っしゃった先生のことを、今改めて思い返している。先生はやはり修道士であり強い方であったと思う。俗人である僕などの及びもつかない強さとひた向きさを併せ持った方であった。己に正直で喜怒哀楽が強く、ちょっぴり我侷で、それでいて誠実さと優しさを持った、人間臭さのある…、そんな先生を敬慕しつつこの拙文を書いている。

事務局だより

★新年度事業計画(案)まとまる

去る3月23日に開かれた役員会において2000年度・函館ラ・サール高校同窓会事業計画(案)がまとまりました。正式には8月12日(土)の同窓会総会での承認で決定しますが、その概要は次の通りです。

*同窓会会報の発刊

今年、函館ラ・サール高校は開校40周年の節目の年に当たります。同窓会はこれを機に会報を発刊することになりました。発行日は総会の案内記事を掲載する関係で7月中を予定します。

*同窓会の職務を担当する専従職員の配置

同窓会々員も1万名を越し、同窓会最大の事業である同窓会会員名簿作成のための仕事も繁雑になりました。5年に1度の作成ですので、その期間中の移動もあり、不備も目立ち始めております。名簿の充実を図るためにも、専従職員の必要性は高く、そのあり方について学校側と話を進めます。

*同窓会入会式の改善

例年、卒業式を目前に控えた2月上旬、母校内において、入会式を行っておりますが、その中身は会長はじめ役員による同窓会の説明が主であり、マンネリとの声もあがって参りました。そこで、来年から儀式として、今ひとつインパクトのある内容に改善することになりました。

*同窓会費の値上げ

同窓会費は卒業時に終身会費として納入されております。会員が1万名を越した現在、事業の充実を図るためにも、値上げは避けられない状態となっております。本同窓会では名簿作成と並ぶ重要事業として在校生を対象とした「奨学金事業」を行っておりますが、現在の超低金利下、その運営も厳しく、本会一般会計からの補助を余儀なくされているのが現状です。そのためにも、会費値上げは必要であります。

*中退者に関する事項

母校中退者で同窓会への参加を希望される方については、会費納入の上、正会員に準じた立場として参加いただくことになりました。

★同窓会会報第1号をお届けします。

今号は同窓会総会の案内もあり、創刊号としては不備なものとなりましたが、今後、徐々に体裁を整えて行きます。お気づきの点がありましたらご一報下さい。